

KYOTO UNIVERSITY

KYOTO UNIVERSITY
GUIDE BOOK

2025



京都大学案内 2025
知と自由への誘い

イメージしてください。

開かれた扉のむこう側。京大生として過ごす日々。

「憧れの風景」が「日常の風景」に変わる。

それはゴールではなく、スタートです

京都大学にゆかりのある11人のノーベル賞受賞者

京都大学は、国内はもちろん、アジアの大学で最多となる11名ものノーベル賞受賞者を輩出しています。
その要因のひとつは「自由の学風」に基づく「対話を根幹とした自学自習」が促す創造精神の涵養にあります。
しかもそれは、創立から120余年を経た京都大学にいまなお、しっかりと息づいています。
11名の先達と同様に、だれもが次のノーベル賞受賞者になりうるのです。



1949年
物理学賞
湯川 秀樹



1965年
物理学賞
朝永 振一郎



1981年
化学賞
福井 謙一



1987年
生理学・医学賞
利根川 進



2001年
化学賞
野依 良治



2008年
物理学賞
益川 敏英



2008年
物理学賞
小林 誠



2012年
生理学・医学賞
山中 伸弥

湊 長博

Nagahiro Minato

京都大学 総長

高校生の私にとって、大学という場所は中になが入っているかわからない、玉手箱のように見えました。インターネットが普及した現代とは違い、当時の地方の高校生がふれられる大学の情報は限られたもの。京都大学医学部を選んだのも、化石好きが高じて生命の起源を学べる場所を探した結果、高校の教師から「生命なら医学部だ」と。

高校時代は数学少年でもありました。一癖ある数学の問題があると、授業そっちのけで数式と向きあった。好きなことを楽しみながら追究し、どんどんなめり込む。私の選択は、そうした反応の連続です。大学卒業後のキャリアなど、考えてもみなかった。とにかく胸にあったのは、「新しいことが待っているに違いない」という大きな期待でした。

新たな環境にさらされ、未知の自分と出会う

とはいえ、入学した年は大学紛争の真っ只中。長らく続いたコロナ禍よりもひどい状態で、授業は開講されず、空いた時間を埋めるように読書をしました。大きな出会いは、F・M・バーネットの『Cellular Immunology』。現代免疫学の理論を確立し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した名著です。夢中になりましたが、わからない用語があると、とたんに理解できなくなる。一人で読んでいては埒があかないと、免疫学の研究室を訪ねました。

研究室のメンバーは3回生の私をこころよく迎え入れてくれました。「実験がしたい」という直談判にも二つ返事で了承し、好きにさせてくれた。実験というものは、失敗・成功にかかわらず、かならずなにかが起こる。その現象を見て、考える。このプロセスに、「これまでにのめり込んだなかで、実験がいちばんおもしろい」と魅了されました。

のちの研究テーマである「がん免疫」に出会ったのも『Cellular Immunology』でした。最終章、期待に胸を膨らませてページをめくると、たったの数ページで終わってしまった。「〈がん免疫〉というものを信じているが、残念ながらわかっていないことはほとんどない」と。未知への探究心がふつふつと湧いてきました。

私にこそできるサイエンスを見いだす

転機は5回生。入り浸っていた研究室の教員の協力で、学部生ながら英語論文を執筆しました。著名な学術誌に掲載されると、「うちで研究しないか」とアルバートアインシュタイン医科大学から連絡があった。師匠と仰ぐことになるバリー・R・ブルーム博士からでした。卒業まで待ってもらいはしましたが、即断して渡米。がんと免疫に関する研究をはじめたのです。

ですから、私は大学院に進んでいません。さらに就労条

件すら聞かずに海を渡りましたから、リスクな選択だともいえます。でも、私にとっては自然のなりゆき。好きなことに一所懸命に取り組んでいたら、道ができた。リスクをとらず、着実に前進するのも一つですが、そうすると成功してもあまり驚きはない。それなら、自分の内なる声に従い選択したい。アメリカで3年を過ごしたあとも同じです。ブルーム博士の勧めでお会いした石坂公成先生の一言で、日本に戻り、内科医としてはじめて患者を診ることに決めた。当時の私には、もっとも先の読めない選択でした。

学生時代の臨床研修先は呼吸器内科。肺がんは当時、きわめて死亡率の高い疾患。一人も助けられない、厳しい現実に打ちのめされました。それ以来、〈謎解き〉のサイエンスに没頭してきましたが、医師としてふたたび、がんの患者と向きあうなかで、これまで挑戦してきた私のサイエンスの意義が明確になった。〈患者がいる・腫瘍がある〉という事実はどう対応するのか。この視点こそが私のサイエンスの根拠だと。

12年の臨床経験のなかで、「治したい」という医師の思いに応えるには、サイエンスが追いついていないことも痛感しました。患者を知る私にこそできるサイエンスがあるはずだと、基礎研究の道に戻ることを決めたのです。当時、臨床から基礎研究に戻る例はめったになかった。だけど、私にとっては、これも自然のなりゆきでした。

想像できない道を選び続けた

それから京都大学で20年、研究を続けました。最終的には、のちにノーベル賞を受賞した本庶佑先生と組んだ研究が実を結び、がんの新たな療法を確立しました。私たちのマウスでの実験は、米国でヒトに応用され、メラノーマ患者の4〜5割、肺がん患者の2割を治癒することに成功しました。肺がんが治るなんて、学生時代にはありえなかったこと。報せを聞いたときは、ほんとうにうれしかったです。

頭から離れない一言があります。米国のがんに関するシンポジウムで、ある研究者に観客が問うたのです。「すばらしい研究です。ところで、一人でも治療に成功したのですか?」。がんの研究はたんなる〈研究〉ではだめだ。そう突きつけられたのです。でも、いまなら胸を張り、「はい、成功しました」と答えられる。あのときの観客の方たちにも届く仕事ができただけは、私の誇りです。

ターニングポイントに立つたびに、先の読めない道ばかり選んできました。たしかに、まっすぐにのびる見晴らしのよい道を歩くのは気持ちいい。だけど、私は曲がり角が現れたときにこそ、ワクワクする。どうせ先は見えないのだから、みずからの声に従い、行きたい道をゆく。型通りに進む人生はおもしろくないですからね。

みたと・ながひろ

1951年、富山県に生まれる。専門は医学、免疫学。京都大学医学部卒業。医学博士。京都大学大学院医学研究科長・医学部長、京都大学理事・副学長、プロボストなどを歴任。本庶佑特別教授との共同研究は、新しいがん免疫療法として結実し、本庶特別教授の2018年ノーベル賞受賞にも繋がった。



湊総長大学時代

将来のことなど考えず、読書に明け暮れ

出会った一冊が進む道を決めた



勉強するからには楽しまないと損。

一所懸命に、「いま」を楽しめ！

佐野 宏

Hiroshi Sano

総合人間学部／大学院人間・環境学研究科 教授



古代文学に探る
平仮名誕生の息吹。
過去の先に未来を覗く楽しみ

私は主に、萬葉集や日本書紀などの古代日本の文学作品と当時の日本語について研究しています。この時代の文献にはどう解釈してよいかわからないものがまだまだ多く、現在の「古代」観がこの先の未来で一新される可能性が十分にあります。近年とくに注力しているのは「仮名」の研究。平仮名は漢字を崩して生まれたと一般的に説明されますが、崩した文字がどうして誰もが読める標準的な文字になるのか、考えてみると不思議だと思いませんか？平仮名がいつごろ生まれたのかも定説はなく、その成立過程の解明に挑んでいます。

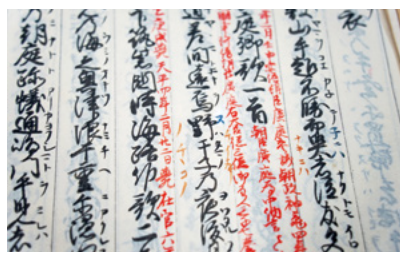
古代日本では、漢字の読み方(音や訓)の音声面を借用して、日本語を表音表記する「万葉仮名」が成立しました。漢字は私たちが知っている楷書に近いもので崩されています。万葉集では「恋」は万葉仮名で「古非」と書くのが多いですが、「孤悲」と書いたりもします。声に出して読むとコヒですが表記を見ると「孤り悲しむ」なんて漢字の選び方にも工夫があります。ところが、言葉を書くのにその都度、自由に漢字を選んでいると、書き方が不統一になってしまいます。けれども、お互いに書いたものを読む中で、よく使う漢字や言葉の書き方を学習して、次第にお互いの書き方が固定的になってゆきます。さらに行政文書の定型文は官人たちが書き慣れていて、次の文字が予測できますから少し崩した字で書かれていても予測で読めてしまう。恐らくは単語の中間の文字とか、慣用的な表現や定型文といった、前後から予測できて

「読める」箇所、万葉仮名から平仮名になる契機があると考えています。漢字で書かれたとはいえ、日本語で「読める」という安心感がやわらかく包み込む表記の世界で、平仮名が生まれた。それは中国語の漢字に寄り添いながらも次第に独り立ちして、漢字とは違う、日本語の文字の世界を創ってゆくのです。

研究の醍醐味の一つは、次の世代に古典のバトンを繋ぐこと。そうやって繋いできたから千年以上前の文献が読めるのです。私一人が明らかにできることは限られていますが、私の研究をもとに若い世代の研究者はまったく新しい解釈を考えるかもしれない。少し視点を変えて、古代文学や古代語学の捉え方が現在とはがらりと変わる可能性があります。私にとって未来を担う研究者を育てるのは、なによりの楽しみです。教員

は誰も同じ思いでしょうが、私もまた次世代のための良き「捨て石」になるつもりでいます。過去の時代を研究していますが、その意味では視線はつねに未来を向いているという格好つけすぎでしょうか。でも研究室はいつも新たな発見に沸いています。

高校生時代は天文学が好きな理系学生で、受験の失敗経験や良き師との出会いを経て、現在の道に進みました。みなさんの前にも未知の可能性が広がっています。京大が掲げるのは「自由の学風」。好き勝手に「自由な」ではなく、「自らによって立つ」という意味の「自由」です。みなさんの「自由」を尊重するやわらかな安心感が京大にはあります。その中で、自らの力を頼りに未来を切り拓き、独自の世界を創ってほしいと思います。京都大学では、そんな充実した学生生活が待っています。



万葉仮名で書かれた万葉集巻三の写し。「朱色や橙色の文字は、のちの時代の人たちの注釈やメモ。修正液のように見える白い箇所は、焼いた石膏などを練った白墨を使っています」

さの・ひろし

奈良県立平城高等学校出身。大阪市立大学大学院文学研究科博士後期課程修了。福岡大学人文学部助教授、武庫川女子大学文学部准教授、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授を経て、2020年から現職。

宇治 梓紗

Azusa Uji

法学部／大学院法学研究科 准教授

政治と経済の思惑飛び交う交渉の場。 複雑な国際社会を 理論で読み解く



国際政治経済分析は世界の諸問題において、政治、経済利益をめぐって国々が対立する様子や国々の協調を可能にする条件を、理論的・実証的に読み解いてゆく学問です。私の主な研究対象は、環境に関する国際条約。2013年に採択された「水銀に関する水俣条約」もその一つです。水銀の適正な管理と排出の削減を定めた条約で、会議の場には約140か国もの政府関係者が出席しました。各国の思惑が錯綜するなかで、どのように条約は成立していくのか、交渉に関わった方々へのインタビューを通して、国際交渉プロセスや国の政策決定過程などを分析し、明らかにしました。

理論をもとに仮説を立てて臨み、あらゆる可能性を考えているつもりでも、交渉や意思決定のプロセスは想定外の連続です。現場の人の動きや空気感、個人の意思決定の過程は、机上の理論だけではつかめません。さまざまな手法を駆使して、発見の手がかりを集めます。こうした一つひとつの問いの実証を積み重ね、新しい視点を得た先に思い描くのは、資本主義社会をもっとクリアに見通せないかということ。資本主義社会が内包する歪みや、歪みが引き起こす問題、その解決策に至るまで、理論的な見方を世の中に提示したいと考えています。

高校時代は、国連などの国際機関で働くことを志して京大法学部に進学しました。学部講義で出会った国際政治経済分析に魅了され、研究者の道を歩みはじめましたが、水俣条約の研究をきっかけに、現在は国際プラスチック条約の交渉の場に外務省の方とともに参加しています。研究の知見をもとに交渉戦略を考えたり、現場にある未整理の情報を学問的に整理して意義のある情報に変換したりと、憧れであった政策の現場で、研究者の立場だからこそできる関わり方を楽しんでいます。

幼少期から英語に触れる機会はありませんでしたが、帰国子女でもなく、特別に国際的な家庭で育ったわけではありません。初めての海外での長期滞在経験も京大に入学してからでした。豊富な海外経験がなくても、大学入学後の学びや活動次第で、国際的に活躍できるチャンスはいくらでもあります。京大の自由の学風は、そうした姿勢を後押ししてくれますし、留学制度や国際的カリキュラムも、近年、よりいっそう充実しています。今は受験勉強が大変だと思いますが、入学後は、自分が一生愛情を注ぎ続けたいものは何かを京大で見つけてください。



大学院の「国際政治経済分析」の授業風景



ジュネーブで開催された「水銀に関する水俣条約」の締約国会議でマサチューセッツ工科大学の研究者と

うじ・あずさ

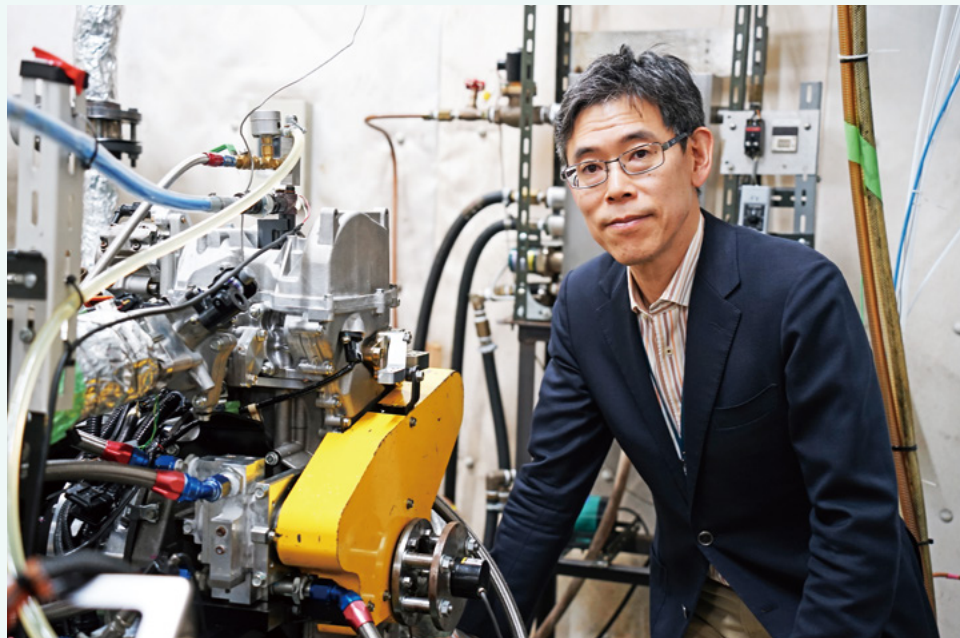
金蘭千里高等学校出身。京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了。京都大学大学院法学研究科講師などを経て、2021年から現職。

川那辺 洋

Hiroshi Kawanabe

工学部物理工学科／大学院エネルギー科学研究科 教授

「好き」という
気持ちがあふくエンジンで、
熱機関の世界を疾走



自動車などの乗りものをはじめ、身の回りのあらゆるものを動かしているエンジン。どんなエンジンにも共通するのが「燃焼」という現象です。自動車の動力の一部が電気に変わろうとする時代ですが、燃焼学の重要性は高まっています。石油をつかわない燃料の最適な活用や、燃焼以外の熱エネルギーを有効に利用する研究など、燃焼・熱という現象の物理・化学的な理解をとおして新たな価値が生まれる可能性はまだあります。大正時代から「内燃機関」の名を冠してつく、私たちの研究室の使命に終わりはありません。

そんな私を研究につき動かすエンジンは、今も昔も自動車です。幼少期から大好きで、いまも自動車のこととなると語りが止まらない(笑)。仕事に選んだ工学的な部分だけで

なく、車の歴史や設計者にまつわる逸話などの文系的な側面も大好きです。そんな私のことを知ってか知らずか、大学院では指導教官から「エンジン以外を研究しなさい」と一言。エンジンから離れて燃焼の基礎を研究対象としましたが、自動車やエンジン研究の動向をチェックせずにはいられません。結果的に、研究テーマに関心の中心から外したことで逆に専門領域が広がるという結果になったのですが、言われなくてもエンジンの発表を聞いたり、実験を手伝っている自分に気づき、「好き」の力はあなどれないと実感したものです。

「なにを(おもしろい)と思うか」が研究です。「おもしろい」を掘り下げれば、そこにはその人なりの観点がある。枝が風に揺れる現象を

見て、同じように「おもしろい」と思ったとしても、流体力学の観点から見ている人がいれば、季節の変化に心動かされる人もいる。一つの現象がはらむ観点は多様。それぞれの「おもしろい」の着火点が進む道を示すヒントになってくれます。

例えば自動車づくりに必要な知識は大学で学べます。でも、それだけでは「いい車」はつくれない。どんな車がつくりたいのか、どんな車が社会に必要なのか。得た知識をつかうには、駆動力となるモチベーションが必須です。それは講義の中ではなく、みなさんの心の内にある。大学生活での経験、出会う人、自身の気持ちの動きを見つめて、自分だけのエンジンを整備して学生時代を走り抜けてください。



トヨタのF1車体に搭載されていたエンジンの実物。前任の教員から譲り受けたあと、特注のアクリルケースに入れて打ち合わせテーブルとして使用。「ものすごい技術と素材が結集しています。見どころは語りきれません(笑)」



愛車(Lancia Delta Integra 16Vの1991年式)と愛犬(手前からマリアとノエル)と一緒に。どちらも大切な相棒で、休日是一緒に過ごしている

かわなべ・ひろし

滋賀県立膳所高等学校出身。京都大学大学院工学研究科博士後期課程単位認定退学。同大学院工学研究科助手、同大学院エネルギー科学研究科 准教授などを経て、2018年から現職。

木村 里子

Satoko S. Kimura

農学部／東南アジア地域研究研究所 准教授

イルカにとって海はどんな世界だろう。
正解がわからないからこそ、
「知りたい!」は強くなる

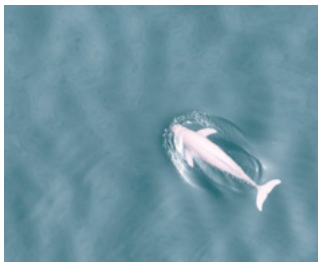


地球の表面の7割以上を占めるのは、海や河などの水の世界。そこに暮らす水生動物の生態を、イルカを中心に研究しています。広大な海も、ひとたび潜れば視界は悪く、イルカの追跡は目視では不可能です。そこで、イルカが発する「音」を手掛かりとする生物音響学の手法で、その生態を調査しています。ここ数年はドローンによる空撮やAIによる音の解析も駆使していますが、それでも調査できるのはごく限られた範囲。行動範囲が広い水生動物の生態は、まだまだ謎に包まれています。

海中で聴こえるのは自然の音だけではありません。船舶の航行音や地下資源調査に伴う音など、人為的な音が水生動物に与える影響の評価にも取り組んでいます。環境に良いクリーンエネルギー源とされる洋上風力発電も、建設に伴って杭を打つ際は非常に大きな音が発生し、驚いたイルカが行動を変えたり、いなくなったりする場合があります。資源調査で使用されるのは爆発のような大きな音で、クジラたちは聴覚を失ったり、パニックに陥り潜水病になったりすること。欧米では開発を行う企業等の出資により研究が進んでいますが、日本をはじめアジアでの研究はまだ遅れています。地球温暖化などの環境の変化も考慮すると、人間社会が与える影響の解明は喫緊の課題です。

調査を通じて追いつめるのは、「イルカは世界をどう認識しているか」ということ。水中は視界がよくありませんが、イルカは超音波を発して反響を聴くことで、数百メートル離れた物体の厚さをミリ単位で認識できることがわかっています。イルカが認識している世界は人間が認識している世界とは大きく違っているはずで、だからこそもっと知りたくなります。環境改善を考える場合も、人間には濁っているように見える河でも、イルカから見ると土壌から栄養が流れ込んだ良い餌場かもしれないと考えてみる。共生には「イルカから見た世界」の理解が不可欠です。

高校までの学びは正解することが目標ですが、研究は答えがあるかどうか分からないことに挑むもの。達成感を感じられる瞬間が毎日あるというわけではありません。ですが、「調べてみたけどわからなかった」という経験は、「次はどうすれば核心に迫れるか」という好奇心の源泉になります。答えを導くのではなく、物事を正しく認識することが私にとっての研究の本質。みなさんも大学ではタフな探究心を育みながら、研究の楽しさを味わってください。



左／ドローンで撮影したスナメリ 中／マレーシアのランカウィ諸島における調査仲間と。「機材をたくさん使用するので荷物が大量です」 右／中国の沿岸におけるシナウスイロイルカ調査での一枚。「中国では地元の方々にとても親切にいただきました。ご飯もとてもおいしかった(笑)」

きむら・さとこ

愛知県立岡崎高等学校出身。京都大学農学部卒、大学院情報科学研究科博士後期課程修了。同国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター特定講師、同大学院横断教育プログラム推進センタープラットフォーム学卓越大学院特定准教授などを経て、2022年から現職。

必須条件は 「熱意」。

京都大学
特色入試
合格者座談会



特色入試は熱く燃える きみの意欲を受けとめます

京都大学では、高校生活での日々の行動や学修をととしての成果、それに学部教育を受けるにふさわしい能力と志とを総合的に評価する「京都大学特色入試」を実施しています。重視するのは学びへの高い意欲と熱意。たぎる熱意を胸に京都大学の門をくぐった先輩たちが、特色入試に込めた思いを語り合いました。

西谷 まずは、みなさんが特色入試の受験を決めたきっかけから教えていただけますか。

永田(農) 私は、学校推薦型選抜で国立大学を受験しようと決めて、高校3年生から大学選びをはじめたのですが、どこよりも京都大学が私の学びたいことと合致していると感じました。学力面の不安はありましたが、高校の先生の勧めもあって決心しました。決定的だったのは、「求む! すんごい意欲。」と書かれた特色入試のポスター(笑)。「これ!」と思ったらひたむきに情熱を傾ける性格なので、この気持ちを前向きに活かしたいと不安な気持ちを切り替えました。

三宅(工) 高1のときから京大志望でした。先生の勧めで特色入試を知り、チャンスが1回増えるなら特色入試の受験も決めました。「国際地理オリンピック」や「化学グランプリ」の受賞歴を提

出書類「学びの設計書(以降「設計書」と表記)」や「顕著な活動実績の概要(以降「実績の概要」と表記)」に書きました。高校時代から京大で化学をもっと学びたいと思っていて、進みたい研究室も高校の時点で絞っていたほど、京大一直線でしたね。

山本(医) 高校の部活動で取り組んだボランティア活動で医療制度や社会福祉制度への関心が高くなって、人間健康科学科の受験を考えはじめました。イベントの企画や運営などの課外活動にも活発に加わっていたので、学校の先生から「受けてみたら?」と勧めていただきました。

西谷 みなさん、学校の先生のあと押しが決め手になったようですね。

岩永(理) 私の場合は、通っていた数学の個人塾の先生から勧められました。特色入試は、数学オリンピックの受賞者が有利だと思っていたのですが、私は数学オリンピックの問題傾向が苦手でした(笑)。過去問を調べると、数学オリンピックとはまったく傾向が違った。特色入試の問題の中には解ける問題もあり、傾向が自分に合っていたので、「合格できるチャンスがあるかも」と。

池田(文) 私は再受験での合格です。高3時の受験では一般選抜で受験して不合格。でも、京大文学部の掲げるアドミッション・ポリシーや特色入試で求める人物像が私の学びの姿勢と合致していたので、どうしても京大が諦めきれず、再受験を決意しました。どれだけ熱い思いがあっても一般入試では伝えられませんでした。不合格がわかったとほぼ同時に、翌年は特色入試と一般選抜両方に挑戦することを決めました。

齋藤(総) 総合人間学部は、文系・理系を問わず、自由に学

齋藤 亜紀 ❶

総合人間学部 3回生

池田 真菜佳 ❷

文学部 2回生

岩永 大樹 ❸

理学部 3回生

山本 一輝 ❹

医学部人間健康科学科3回生

三宅 諒音 ❺

工学部理工化学科 2回生

永田 理華 ❻

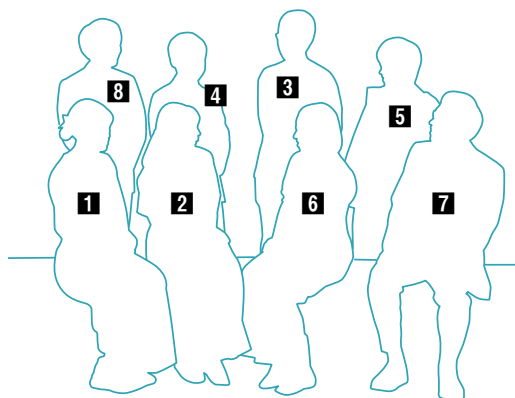
農学部食料・環境経済学科 2回生

國府 寛司 ❿

京都大学 入試担当理事・副学長

西谷 健司 ❸

教育推進・学生支援部 入試企画課



齋藤 亜紀 さん

総合人間学部 3回生
兵庫県 兵庫県立長田高等学校出身

特色入試は私にぴったりでした

知識が問われる総合人間学部の

文系・理系の両方の



國府 寛司

京都大学 入試担当理事・副学長

べることが魅力です。私は古文書から過去の災害を調査・分析することに興味があったのですが、そのためには文系・理系両面での研究が必要なので総合人間学部を志望しました。高校時代は理系を選択していましたが、得意科目はなぜか国語(笑)。文系・理系両方の知識が問われる総合人間学部の特色入試問題は、私にぴったりだと感じたのも受験の理由でした。

これまでの自分を見つめ直して、 自分自身の軸を見つけよう

西谷 特色入試では、学部によっては面接や「設計書」を通して自分をアピールすることが求められますね。みなさんは、どんなことをアピールしましたか。

永田(農) 高校時代に「模擬国連活動」を通して国連において実際に開かれた会議の課題を模擬的に再現するなか、食糧問題が世界の多方面の問題・課題に関わっていることを実感しました。部活動などの他の課外活動も熱心に取り組んでおり、設計書でも軽くは触れましたが、模擬国連活動は私の高校時代の土台となる活動でしたので、この活動を中心にアピールしました。

三宅(工) 工学部理工化学科は「設計書」の他に、「実績の概要」を提出することが必須です。化学グランプリなどの受賞経験は活動実績の根拠となるので、「設計書」は化学に対する一貫した思いが伝えられるよう焦点を絞って、一点集中で臨みました。

山本(医) 私もみなさんと同じように高校生活での経験と入学後の学び、卒業後の社会貢献への熱意などを具体的にアピールしました。大切にしたのは、「私はこういう人間だ」とわかってもらえる自分の長所をわかりやすく伝えること。私は人前に出たり、リーダーシップをとることが好きなタイプなので、とくにその点が伝わるよう心がけたつもりです。

岩永(理) 口頭試問については、高校の担任に何度か練習で指導いただいたことで、本番での不安は減りました。そして理学



永田 理華さん

農学部食料・環境経済学科 2年生
東京都 聖心女子学院高等科出身

一般選抜では不安がある人も
気後れせずに受験してほしい。
かならず未来の糧になる入試です

特色入試では評価してもらえました

数学への思い。そんな思いも

様式内に収まりきらない



岩永 大樹さん

理学部 3年生
兵庫県 灘高等学校出身

部では「設計書」ではなく、「学びの報告書(以降「報告書」と表記)」を提出しますが、印象的だったのは「興味を持った数学の定理や公式の内容と理由を説明せよ」という問い。そこで、相加・相乗平均の関係の不等式がいかに美しいかということについて書きましたが、様式内に収まりきらず、別の用紙を追加して書きました(理学部数理学入試の「学びの報告書」は別紙を追加してもよい)。学力だけでなく、そんな思いも評価してもらえる入試なので、後悔のないよう、自身の思いをぶつけることが大切だと思います。

池田(文) 中学生のころから平安時代の文学作品が大好きでした。作品を読むことはもちろん、関連する論文も読みましたし、高校の探究活動でも文学作品を扱いました。それらの経験からいっばんにアピールしたのは、文学作品に向きあうときの姿勢です。京大文学部は文献を忠実に読むことを大事にしているのですが、私もまったく同じ考えで、高校時代から多くの文献に触れてきました。今は文学部図書館の膨大な文献(約116万冊!)に夢中です(笑)。

齋藤(総) 高校の課題研究で、昔の気象観測機器を使って実験をしたことを書きました。でも、コロナ禍と重なったこともあって思うように実験ができず、当初思い描いていた結果は得られませんでした。この失敗経験をすべて正直に書いたのは挑戦でもありましたが、その過程を評価してもらえたのかと感じています。

総合人間学部はなんでも学べる学部なので、専門分野は入学後に決める人も多いですが、私には災害研究というテーマが最初からありました。工学部や理学部などでも研究できる内容ですが、古文書を読むほか、国際関係や経済の視点からも災害の実態に迫りたいと考えていたので、あえて総合人間学部で学びたいとアピールしました。

國府 「私が特色入試を受験するなら、どんなことをアピールしようか」と考えながらお話を聞いていました。中学生のころから歴史や推理小説が好きで、自分でも推理小説を書くような学生でした。そんな自分が数学に興味をもつようになったのは、高校に入学して最初の中間試験の数学で思ったよりもいい点数が取れたから(笑)。

もともと嫌いではなかったのですが、それから数学のおもしろさが目覚めました。そんなとき、京大出身の数学者として初めてフィールズ賞を受賞した広中平祐先生が京都大学に教授として着任されると聞いたこともあって、京大に進学を決めました。

私の進路選びは自分の考えというよりも、周りの影響も大きかったように思います。特色入試は、自分が何に興味があるのかをじっくり考え、自分自身を知ったうえで臨むことが大切だと、みなさんのお話で改めて感じました。



三宅 諒音さん

工学部理化学科 2回生
岡山県 岡山県立岡山朝日高等学校出身

京大一直線。
人に負けない熱意と努力を
評価してもらえる入試です

特色入試合格者はいわば学部のお墨付き。 自信を胸に邁進してほしい

西谷 令和8年度特色入試から、理学部と工学部で「女性募集枠」がスタートします。現在の各学部の女性比率を高い順に並べると、もっとも高いのは医学部人間健康科学科の約6割。工学部・理学部は徐々に増えてはいるものの、それでもまだ1割に満たず、極端に低い現状です。

三宅(工) 他の大学や学部の話を知ると、京大の工学部はたしかに女性が少ない印象です。

永田(農) 農学部は、理系学部としては女性比率は比較的高いのですが、女性募集枠が、理学部や工学部に限らず、他の理系学部にも関心があり、意欲のある女子受験生のハードルを下げる契機になってほしい。

齋藤(総) 私は理学部の講義を受ける機会もあるのですが、教室に私を含め1、2人しか女性のいない授業も多いですね(笑)。

西谷 この女性募集枠は、特色入試で実施するため、一般選抜と違い、学部が求める条件に見合う受験生がいなければ合格者が募集人員を下回るという可能性もあります。実際、昨年の特色入試では、全学部の募集人員が172人に対して合格者は140人で、満たなかった人数は、一般選抜の定員に振替えられました。女性募集枠に限らず、特色入試での合格者は、学部が「この学生なら」と太鼓判を押した人。女性募集枠で合格した人も一般枠で合格した人も、同じように自信をもってもらいたいですね。

ところで、逆に男性比率の低い人間健康科学科では、男子学生にもっと増えてほしいと感じることはありますか。

山本(医) 先端看護科学コースは、看護師をめざすコースだと思っている受験生が多いと思います。実際に、進学が決まったとき、同級生から「看護師になるの?」とよくきかれました。もちろん看護師にもなれますが、私のように保健師をめざす道や、研究者や官公庁、企業に就職する道も、京大の人間健康科学科では開かれています。このことがもっと周知されれば、男性の志願者も増えると思います。

西谷 ひと昔前は、看護は女性の仕事だと思われていました。いっぽうで、工学部のものづくりや研究は男性の仕事という印象が強い時代がありました。この背景にある課題は、同じではないかと思うこともありますね。

國府 同じ理学部でも、生物科学系は女性が比較的多いけれ

私という人間がわかってもらえるよう
自分の長所をわかりやすく
アピールしました



山本 一輝さん

医学部人間健康科学科 3回生
大阪府 大阪桐蔭高等学校出身

ど、数理科学系はとくに少ない。いっぽうで数学の国際学会に行くと半数とまではいかなくても相当数の女性研究者がいるのに、日本はなぜかものすごく少ない。もちろん能力の違いではなく、日本社会の空気や事情で数学の分野に進もうという女性が少ないのでしょう。女性募集枠を設けることには、こうした状況を広く知ってほしいというねらいもあります。アメリカでも、1960年代までは女性の数学者は少なかったそうです。意識の変化が世界レベルで続いてきていることをふまえて、社会全体で考えるきっかけになればと考えています。

挑戦の資格は「意欲」あるすべての人に

西谷 最後に、高校時代の自分を思い出しながら、特色入試の受験を検討している高校生たちにメッセージをお願いしますか。

齋藤(総) 特色入試というと、コンテストの受賞経験などの秀でた実績がなければ合格できないと思っているかもしれませんが、でも、直感的に「私はこの学部に向いている!」と感じる部分があるなら、受験する資格は十分にあります。構えずに挑戦してください。

池田(文) 結果や実績などの「なにをしたか」ではなく、そこに至るまでの過程と「なにを学んだか」が評価されるのが特色入試。臆せずに熱意を出してください。

岩永(理) まずは、好きという思いや興味をとことん突き詰めてほしい。熱意を言葉にするのは、最初はむずかしいかもしれませんが、「報告書」や「設計書」を書くことをとおしてしだいに洗練されていきます。最初から気張らなくていいので、まずは、熱意を伝えることが重要だと思います。

山本(医) 高校生活をしっかりと送っていれば、中身は違えどもアピールポイントが自然と生まれます。高校時代の活動のなかでそれぞれが感じたことを、これからいかに活かすべきかをじっくり考えれば、将来のイメージは見えてくるはずです。将来の姿がイメージできることで、入学後に何を学べるか、はつきりすることも貴重な経験です。



西谷 健司

教育推進・学生支援部 入試企画課

三宅(工) 私のように進みたい進路が明確な人は、どうしても京大で学びたいという気持ちや、そのために取り組んできた活動や思いをぶつければ、きっと受け入れてもらえます。人に負けない熱意と努力があれば、評価してもらえるのが特色入試だと思います。

永田(農) 一般選抜に不安がある人も、気後れせずに受験してほしい。私が1回生のころから様々な経験をしたり、テーマを決めて研究や調査をするなど早くから行動に移せたのは、特色入試に挑むことで自分のやりたいことを明確にできたからこそ。合否にかかわらず、自分をふり返り、自分の高校生活をみつめ直してそれを将来像につなげるという経験は未来の糧になるはずです。

國府 能力、意欲、志のある学生に入学してもらうことは、特色入試の理念の一つです。お集まりのみなさんが、「能力、意欲、志のある学生」を体現しているとわかり心強く思いました。強いモチベーションをもって入学すれば、意欲的な学びを続けることができるのだと改めて実感できました。本日は貴重なお話、ありがとうございました。

西谷 それぞれのフィールドでみなさんがこれからも活躍されることを期待しています。

特色入試に挑戦しました

一般選抜では届かない。諦めきれずに

どれだけ熱い思いがあっても、



池田 真菜佳さん

文学部 2回生
東京都 東京都立三鷹中等教育学校出身

2026(令和8)年度特色入試の変更について

女性募集枠の新設

目的

一部の学部におけるジェンダー・インバランスを解消し、様々な属性や背景を持つ学生同士が存分に語り合い、議論をしながら学びを深める環境を実現するため、キャンパス構成員の多様性の確保を目的とする

開始時期

2026年度入学者選抜から実施
(入学者選抜は2025年度中に実施)

女性募集枠 導入学部

理学部

「物理学・数学」、
「宇宙・地球惑星科学」
の各入試

女性募集枠の
募集人員

15名

工学部

地球工学科、物理工学科、
電気電子工学科、
情報学科、理工化学科

女性募集枠の
募集人員

24名

2026(令和8)年度特色入試(一般枠・女性募集枠) 導入学部 募集人員

理学部 試験実施方式: 総合型選抜

2つの入試区分で女性募集枠を新設 /

入試区分	特色入試募集人員		
	R8		(参考) R6
	一般枠	女性募集枠	
物理学・数学入試	—	10	—
宇宙・地球惑星科学入試	—	5	—
化学入試	7	—	—
数理学入試	5	—	5
生物科学入試	10	—	5
合計	22	15	10
	37		

工学部 試験実施方式: 学校推薦型選抜

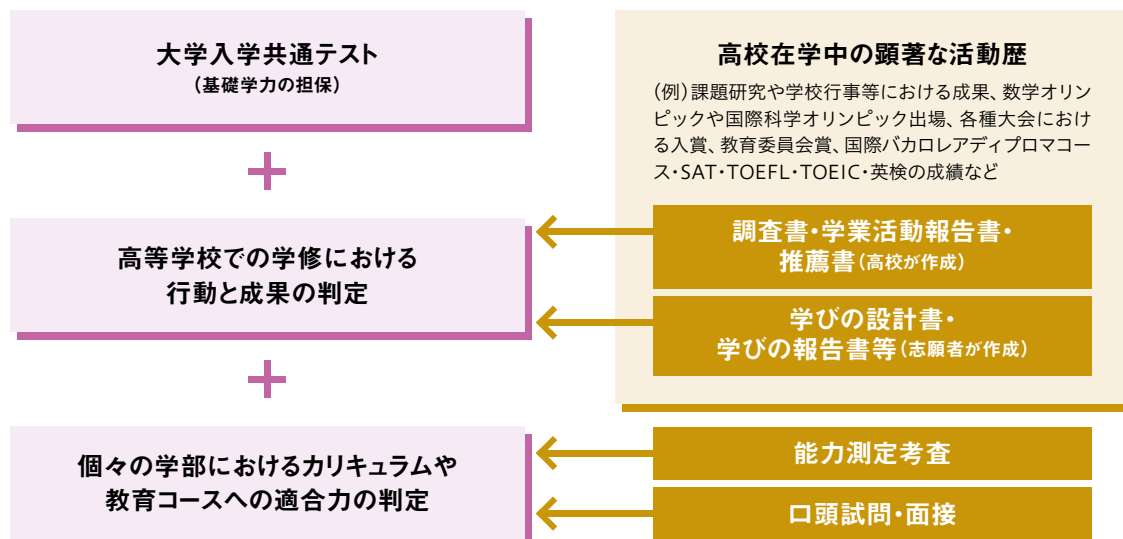
5学科で女性募集枠を新設 /

入試区分	特色入試募集人員			女性募集枠との併願可
	R8		(参考) R6	
	一般枠	女性募集枠		
地球工学科	5	5	4	○
物理工学科	5	5	5	○
電気電子工学科	7	7	7	
情報学科	2	2	3	○
理工化学科	15	5	10	○
建築学科	3	—	3	
合計	37	24	32	
	61			

京都大学特色入試は

能力・意欲・志

を多面的・総合的に評価する大学入学者選抜です



■ 学部・学科・コース別の選抜概要

学部・学科・コース		募集人員	選抜方法	試験実施方式	提出書類
総合人間学部		5人	書類審査、能力測定考査(文系総合問題、理系総合問題)、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
文学部		10人	書類審査、「学びの設計書」に関する論述試験、論文試験、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
教育学部		6人	書類審査、課題、口頭試問、共通テスト	総合型選抜	調査書、学びの報告書、学びの設計書
法学部		20人	書類審査、小論文、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、推薦要件を満たすことを証明する資料、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
経済学部		文系型入試 15人 理系型入試 10人	書類審査、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動・学習実績の概要、(文系型入試のみ)英語民間試験受験者成績書または合格証明書
理学部		数理学入試 5人 生物科学入試 5人	書類審査、数学に関する能力測定考査、口頭試問、共通テスト 書類審査、口頭試問、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの報告書
医学部	医学科	5人	書類審査、口頭試問、面接、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL iBT スコアレポート、特色事項に関する資料
	先端看護科学コース	20人			
	先端リハビリテーション科学コース(先端理学療法学講座)	5人	書類審査、論文、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	先端リハビリテーション科学コース(先端作業療法学講座)	5人			
薬学部		薬科学科 3人 薬学科 3人	書類審査、論文、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
工学部	地球工学科	4人	書類審査、共通テスト	学校推薦型選抜	調査書、推薦書、学びの設計書
	建築学科	3人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	物理工学科	5人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	電気電子工学科	7人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	情報学科	3人	書類審査、口頭試問、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
	理工化学科	15人	書類審査、共通テスト		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要
農学部	資源生物科学科	3人	書類審査、面接、共通テスト	総合型選抜	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
	応用生命科学科	4人	書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	地域環境工学科	3人	書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	食料・環境経済学科	3人	書類審査、小論文、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	森林科学科	7人	書類審査、小論文、面接、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書
	食品生物科学科	3人	書類審査、口頭試問、共通テスト		調査書、学業活動報告書、学びの設計書、英語民間試験受験者成績書または合格証明書
合計		177人			